

# 「雇用によらない自立的な働き方を支えるキャリア形成支援」

## 対象とする社会問題

- 年功序列・終身雇用といった従来の雇用形態からの変容が進む中、ワークライフバランスを重視した雇用によらない自立的な働き方（フリーランス）を志向する人が増加する傾向にあるが、このような変容に対する労働環境の整備が遅れている。
- COVID-19がもたらす産業構造変化によって、フリーランスの不安定性、処遇問題が顕在化している。

## 政策的課題

- 政府はこれまで、「フリーランスガイドライン」の策定等を行ってきたが、依然としてフリーランスの保護の更なる拡充等、社会の実態等を踏まえた法制度整備が課題である。
- 職業能力向上やキャリア形成に関し、「雇用類似の働き方に関する検討会」（厚労省）ならびに「雇用関係によらない働き方に関する研究会」（経産省）では、教育訓練システムの整備、働き手が向上させようとしている能力と企業が求める能力との乖離等を今後の課題として提示している。

## 研究開発要素例（産業心理学、労働経済学、労働社会学、情報学ほか）

- 職業能力を客観的に測り、評価し、蓄積して行く仕組みに関する研究開発
  - 各人の経験や能力を可視化しその価値を適正に評価する方法（IoT、ヒューマンセンシングなどICT活用も含む）
  - 社会的信用の向上や、継続的キャリア形成に資する専門能力の資格・格付け制度の研究開発。これを活用したフリーランスのための報酬相場の研究開発
- 自身が望むキャリア形成に長期視点で取組む仕組みの実現に向けた研究開発
  - デジタルプラットフォームを活用し、新たなロールモデル創出に向けた、経験や能力の適正評価に基づくキャリアカウンセリングシステムおよびマッチングシステムの研究開発。
- フリーランスのキャリア形成を支援する現場としてコミュニティおよび、教育関係主体との連携による施策のトライアルと評価

## 期待される施策と担い手の例

- 職種・資格別コミュニティ、フリーランス協会、フリーランスユニオン等との連携による、職業能力評価のトライアル。その結果を活用した、キャリアカウンセリングシステムおよびマッチングシステムのトライアル。
- 大学・高専・企業・自治体・学会等との連携、更に職業能力訓練機関との連携による、職業能力評価のトライアルとリカレント教育への応用。

